

11月定例活動

# 竹林の整備&竹炭用材づくり

～第5回天白・もりのフィールドサーキット～



▲フィールドサーキット参加者による竹林整備のようす

天白・もりのフォーラムは、天白区内の自然を活動拠点としている市民グループ等の組織です。毎年、各団体の活動を体験する形で、フィールドサーキットを行っています。今年の5回目は森くらぶの当番で「竹林の整備とサツマイモの収穫」を楽しみました。

COP10を控えてか、参加者が50名を超える事態に、急きょ竹林グループとサツマイモグループに分けて活動開始。

竹林グループは、トンボ池北側と山根口の雑木林に侵入した竹の除伐に取



▲フィールドサーキットに集まった大勢の参加者たち

り組みました。直径15センチを超える成長のよい竹も多くかなり重労働でしたが、作業に手慣れた参加者が多かったこともあり、昼までにかなりの量の竹を搬出することができました。今回は切った竹の有効利用を体験していただくということで、枝を払った竹は竹炭の短材に加工し、枝は3月に作った山根口近くの竹垣の補修に使いました。特に専用の竹割り器を使った作業は子供たちに人気で、太い竹を相手に体ごとジャンプする姿は子供らしい元気さにあふれ、見ていてとても楽しいひと時でした。

サツマイモグループは収穫したサツマイモを竹炭で焼いて食べ、森の体験を終えました。

区役所のみなさんお手伝いありがと

うございました。(大館)



▲子どもたちはやっぱりイモ掘りが一番楽しそう



▲除伐した竹の枝で竹垣を補修

## 巣箱点検 ～野鳥も新築、陽当たり、見晴らし良好な物件がお好み?!～

爽やかに晴れ上がった秋の森をコゲラ、シジュウカラ、メジロ、エナガの混群が木々を縫って軽やかに移動していきます。

巣箱点検も6回目、慣れてきたものの、木々の中の高い枝に掛けてあるものを見つけるのは大変です。「あった、あった!」の叫び声で集まり、竹の竿の先に引っかけて降ろし、清掃して元に戻す作業を営々とこなしていきました。その内に営巣されているかどうかを開ける前に勘で分かるようになると同時に、面白いパターンが見えてきました。

2008年8月の定例活動で新しい巣箱を作ったので、昨年は清掃と同時に新旧の取り替えを行いました。その時、

あまり痛んでいないものはそのまま残して、脇に新しいものを併設しておきました。



▲営巣が確認された巣箱

今年は28の巣箱の内、7つで営巣されていました。なんと、その中の5つは新しい巣箱でした。しかも営巣

されていたのは広々とした空間があり、見通しも良く、陽当たり良好な尾根の近辺に設置されていたものでした。そのほかの巣箱はドバチ、アシナガバチ、スズメバチ、ゴキブリに加えて、今年はカマドウマにも利用されていました。カマドウマがどうやってあんな高いところまで行けたのか?と皆が首をひねりました。

防腐剤の臭いが残っていても新しい巣箱を好むという事実は古澤先生にも驚きのようなものでした。とにかく相生山のシジュウカラは人間に似て「新築、陽当たり良好、見晴らし良好」の住宅好みという結論になって、楽しい気分が終わった巣箱点検でした。(伊藤 晶)